

「失う前にケアしたい！」

「伝えたい！健康の価値」

『日本の平均寿命が2021年時点で85.2歳となり、約30年間で5.8年延びた一方、「何らかの健康問題を抱えて生活する期間」が延びて健康寿命との差は広がったとの解析結果を慶応大などのチームがまとめた』との報道が先日あったように、世界に先んじて超高齢社会に突入した日本にとって、健康寿命の延伸は大きな課題となっています。そのような課題について、「失う前に、健康の大切さを知ってもらい、ケアしたい」との想いのもと、看護師を退職し、55年続いた家業の鍼灸院を引き継ぎ奮闘している 鍼灸 武藤療院 代表、武藤里恵さん。今月号では、そんな武藤さんの想いや、事業承継までの経緯、これからの夢についてお伺いしました。



鍼灸 武藤療院
代表 武藤 里恵さん

充実した看護師としての日々

「看護師の仕事はすごくやりがいがありました。医師や看護師だけではなく、病院スタッフが一丸になって、患者さんの治療に取り組んでいく仕事は、携わっていてすごく充実感がありました」

そう語る武藤さんが看護師を志すようになったのは、ご家族の入院がきっかけでした。「父が入院することになって、付き添いで病院に行ったとき、すごく不安でした。そんな中、看護師さんが身近な存在として親身に接してくれて、すごく安心したんです。私もこんな仕事したい、そう思うようになりました」

大学での勉強を経て看護師の世界に飛び込んだ武藤さん。患者さ

んからの「ありがとう」の声や大学病院での最先端の治療現場での仕事は非常にやりがいがあり充実した日々を過ごしていました。そのような環境で患者さんと接している中で、武藤さんはある「想い」を抱くようになりました。

抱き始めた伝えたい「想い」

「勤めていた大学病院が全国でも最先端の治療をおこなう病院だったこともあり、患者さんの多くが症状の進行している方でした。皆さん最先端の治療を受けて症状は改善するのですが、ほとんどの患者さんが何かを失っていました。手術により臓器を摘出したり、身体を自由に動かせる体力を失ってしまったり、後遺症が残ってしまったり。病気はなおっても、患者

さんをもとの生活には戻してあげられない現実にもどかしさを感じていました」

そのような患者さんと接する中で、武藤さんにはある「想い」が芽生えます。

「患者さんに色々お話をお伺いしていると、大学病院に来るもつと前に身体に不調の兆しを感じている方がほとんどでした。もしその時に健康の大切さに気付いてもらって、ちょっとしたケアができていれば……。何とか兆しの時点で健康の大切さを伝えることができないかな」その想いはどんどん大きくなっていきました。

家業をとおして想いを実現したい

何とか伝える方法はないだろう

かと色々試行錯誤をする武藤さん。「病院では病気を患った方にしか会えないので、もつと前に患者さんと会えないかなと考えました。セミナーを開催して伝える方法とか、色々考えていた中、家業の鍼灸であれば、それができるのでは」と思うようになりました。

「鍼灸であれば、看護師として学んだ西洋医学の知識をいかすこともできるし、何よりも病院を必要とする前の人に出会えるなと思いました。父も高齢で事業を少しずつ縮小しているタイミングだったので、父の想いを継いで家業を承継し、自分の伝えたい想いを患者さんに伝えていきたいなと考えるようになりました」

そこから一念発起して病院を退職、鍼灸の専門学校に通い、鍼灸師としての勉強を始めます。「実際に専門学校に行くと、今まで『いい』ことはわかっていた鍼灸の治療が、看護師として身につけた西洋医学の知識と紐づいて、『なぜいいのか』理屈として理解できることがすごく多かったです」

武藤さんの中で西洋医学と東洋医学が融合した、患者さんを救うための知識、治療が熟成されていきました。「手技については、身近に父という教科書がいるため、在学中も色々教えてもらったり、

学校の校長先生に直談判して教えていただいたりと、技術を磨くために結構努力をしました」

そんな3年間の勉強期間を経て、2024年10月、鍼灸 武藤療院は武藤さんとお父様の2人体制でリニューアルスタートします。

失う前にケアしたい

鍼灸 武藤療院のコンセプトは、「失う前にケアすること、健康の大切さに気付いてもらうこと」

ちょっとした体の違和感や体調不良などで来院された方には、知識、経験に基づいた丁寧なヒアリングをおこないます。

「鍼灸の治療ではなく、病院で検査が必要だったり、病院で治療してもらわないとダメな人もいます。色々お話をお伺いする中で、今までの経験、知識を総動員して、最悪の事態を除去するために、その患者さんにとっていま一番必要な処置を提案することを大事にしています」

看護師としての西洋医学の知識、経験と、鍼灸で学んだ東洋医学の知見、双方を活かして、患者さんに元気でいることの価値を伝え提供していく、これが武藤療院の治療の基本スタイルです。そんなスタイルが少しずつ浸透し、リニューアルオープンから半年たった今

では、働き盛りの世代の患者さんも徐々に増えてきました。

みんな患者さんを救いたい

家業を通して発信し始めた武藤さん。そんな武藤さんには、今後患者さんのために作り上げたい、新たな治療のカタチがあります。

「病院の時にやりがいを感じていた、医師や看護師、理学療法士や薬剤師など、色々な立場の人がそれぞれの意見を出しながら一丸となつて一人の患者さんを救う治療をしたいと思っています。病院では一つの組織でそれができたけど、今度は地域でそれができればなど。地域の医師や理学療法士の方などとコラボして、みんなで協力して『患者さんにとって一番いい治療』をしていきたいなと考えています。実際に知り合いの理学療法士の方と一緒に、針の治療と理学療法的な治療を合わせてケアをして、患者さんがすごくよくなったこともありました。今後もこのような治療をどんどん広げていき、患者さんに大きな障害なく、長く人生を楽しくでもらいたいなと思います」

武藤さんの「想い」は、患者さんを通して、地域に広がっていきます。